

年回表のご挨拶と 石に想いをこめて

今年も皆様に年回表をお届けさせていただきます。

年回表は、お亡くなりの方が何年だったかを見て、今年が何回忌にあたるかを確かめるものです。

平成22年から、お名前とご住所がわかるお客様へお送りしています。原稿は毎年書家にお願ひし、紙質は柔らかく暖かいクリーム色にしました。

平成23年からは、番地銘石の経営理念を記しました。

地域の文化と共生し心の豊かなふるさとづくりに貢献します

ちょっと背伸びしていますが、石に想いをこめることでまちづくりに貢献したいと願っています。

八戸市で祖父が石材店を開業し、次男の父が高校卒業後、青森市の店を預けられて現在の番地銘石になりました。

昭和26年、青森で父が石屋を始めた頃は、もちろん青森市内に古くからの石屋さんがいきました。なかなか思うように仕事が多かったようです。市内の石屋さんが、遠い現場や坂道を登る面倒な現場を番地にやってもらったらと紹介されたこともありました。三厩、今別、外ヶ浜などの上磯方面や川内、

むつなどの下北方面のお客様がいらっしやるのはそのころのおつきあいのお蔭です。

昭和30年代から40年代はお墓の高度成長期で、青森空襲の焼け跡から横山實市長のもとで青森市の再開発がはじまりました。市内のたくさんのお寺さんから三内霊園へまとまってお墓の移転がありました。

お墓の仕事が年末には来年のお盆まで一杯に予約が入っていたという、夢のような時代です。当時は、どんな産業も高度成長で毎年売り上げがどんどん伸びてました。

市内の石屋さんたちはお墓工事で忙しく、たまに引き合いのある記念碑は、手間がかかって利益が少ないと、敬遠していました。父はそんな記念碑工事が好きでした。夜中に好きな日本酒を飲みながら方眼紙に石の絵と文字を書いてレイアウトを考えたり、現場に朝早くでかけて、帰りは温泉に入ったりと、仕事と趣味が一体でした。発注者から碑の名前と予算を言われた後で、父はこの記念碑はなんのために建てるのか、碑の目的をしっかりと刻みましようという提案しました。そんなやりとりでお客様さんから頑固者と言われるくらい親しくなったりと、仕事を通じて人間関係を学んだのだと思います。



当社月見野工場で彫刻レイアウトする父
平成11年5月11日ほたて顕彰碑

中学ころまでの私にとっては怖くて側に居たくない父親でしたが、高校くらいからは、『なるほど、かわっているけれどなかなかおもしろいな』と考える父になっていきました。そんな父が68歳で亡くなって今年で16年、17回忌を迎えました。私も還暦となり、『ウーム、親父はこの歳にはこんなことをやっていたのか、それにひきかえ今の自分は…』と、私の未熟さを悟られます。

想いは石に刻んで長く残ります。後の人にどんな想いを伝えたいのかを大切にしていきたいと考えています。

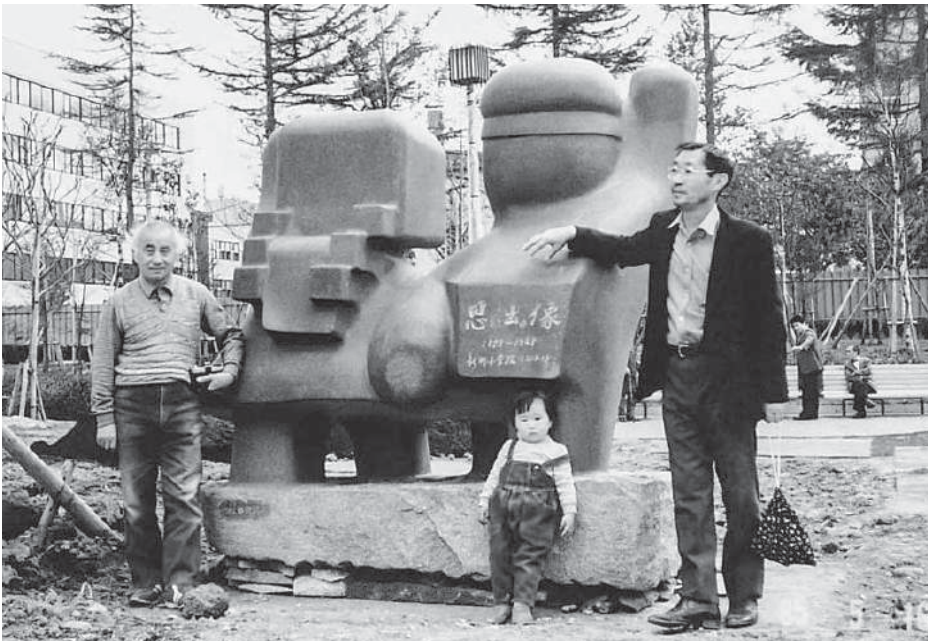
これからもどうぞお引き立てのほどをお願いいたします。

ありがとうございます。

番地 常夫

学び舎は生きている

新町小学校 思い出の像 鈴木正治氏 製作



左端 鈴木正治さん66才 中央 私の長女2才 右 番地堅氏(当社先代代表)52才

現在の青森県庁の東側に、昭和20年の青森空襲で焼失した新町小学校が建っていました。青い森公園の工事の機会にここにあった新町小学校の思い出を残そうと、卒業生のみなさんが運動を起こし、記念彫刻を設置することとなり、卒業生でもある鈴木正治さんが作者に選ばれました。昭和59年の秋から、番地銘石の月見野工場で作開始し、60年の5月に完成しました。

かわいい男の子と女の子が手をつないで歩く姿。6トンほどある一個の原石を削り出して仕上げました。釜石産の青御影石で、石を掘り進み磨き仕上げをしていると、ちようど男の子の顔のあたりに天然の白い模様がでてしまいました。青い石ですがそこだけ20センチぐらい丸くうすらと白いです。その時鈴木さんは「このままでいいよ。昔の子供はたむしやしらくもがよくあったものだよ」とひょうひょうとしていました。

鈴木さんは木彫から石彫を始めたころ、野内川の河原に行き、千川の自宅に自転車で運んでいましたが、途中で堤町の当社に立ち寄り、私の父の番地堅氏と知り合いました。

そのころの鈴木さんは石材加工の道具も不十分だったので、父は鈴木さんの創作の揺るぎない情熱に打たれて、石屋の使い込んだ道具や、工場が出る端材の石を良く分

けてあげていました。

鈴木さんはそのひょうひょうとした生き方に辿り着くまで、中国での従軍など様々な体験があったと聞いています。生活のすべてを作品造りに向けて生きてきた思いが作品にこめられています。

戦後の廃墟からたくさんの先輩のみなさんの努力で豊かな先進国となった日本は、今までのように、より多くより安くより早くの競争の時代を過ぎて、次は自分の信じる価値を追い求め表現していく時代になっていくことでしょう。

鈴木正治さんは自身の人生を通じて次の時代を示してくれているようです。

鈴木 正治

1919年11月13日誕生
2008年4月19日逝去

写真は石像設置の現場です
現在の青い森公園
撮影 昭和60年5月16日